



大阪府中央会情報連絡員報告

## 府内中小企業の景況

2022年  
10月

- 10月のDIは、全9指標のうち8指標が低下、主要3指標は、売上高24ポイント低下、収益状況5ポイント低下、業界の景況は2ポイント低下している。
- 10月末時点では、製造業では4指標のDIが低下、また非製造業では6指標のDIが低下している。

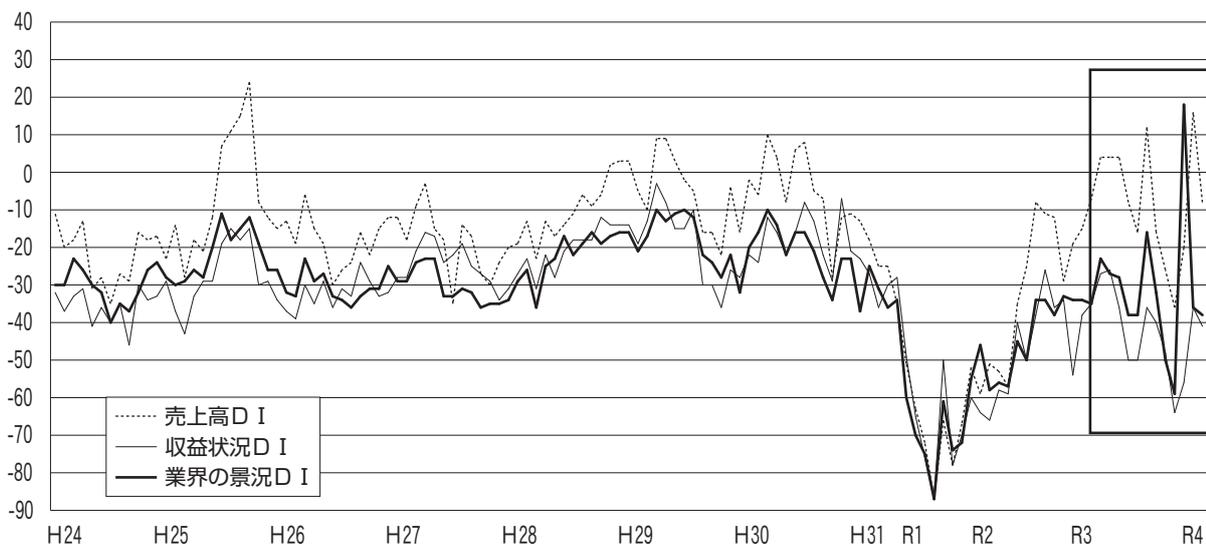
## 景況天気図

令和4年 10月分	全産業			製造業			非製造業			30以上 快晴
	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比	
売上高	16 	△8 	↓ -24	27 	△7 	↓ -34	0 	△11 	↓ -11	10~29 晴れ
在庫数量	0 	6 	↓ 6	0 	6 	↓ 6	0 	0 	→ 0	9~△9 うす曇り
販売価格	24 	21 	↓ -3	27 	27 	→ 0	20 	11 	↓ -9	△10~△29 くもり
取引条件	△12 	△13 	↓ -1	△13 	△13 	→ 0	△10 	△11 	↓ -1	△30~△49 雨
収益状況	△36 	△41 	↓ -5	△46 	△46 	→ 0	△20 	△34 	↓ -14	△50以上 大雨
資金繰り	△12 	△13 	↓ -1	△20 	△26 	↓ -6	0 	0 	→ 0	
設備操業度	△20 	△33 	↓ -13	△20 	△33 	↓ -13				
雇用人員	△8 	△8 	→ 0	△7 	△7 	→ 0	△10 	△11 	↓ -1	
業界の景況	△36 	△38 	↓ -2	△40 	△40 	→ 0	△30 	△33 	↓ -3	

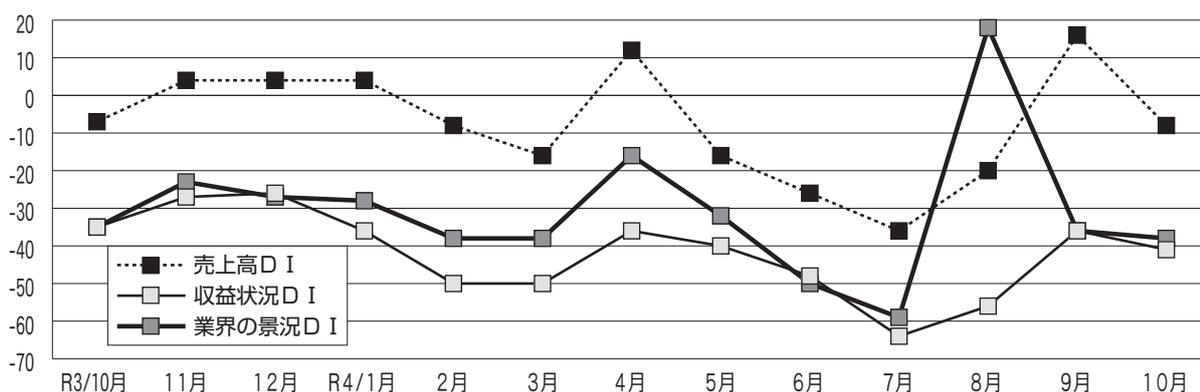
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H24年10月～R4年10月のDIの推移



全産業 R3年10月～R4年10月のDIの推移



業種別概況 (10月分)

【製造業】



水産食料品製造業

梱包資材や燃料、電気等の高騰により、コロナ禍以前の7割ほどしか回復しておらず、原料となる水産物の高騰と入荷量の減少もあり業界の景況は悪化している。



綿・スフ織物製造業

原油価格の高騰や製造コストの上昇などで、製品価格に転嫁することが思うように進まず先行き不透明な状況である。



木材加工業

前年同月と比べ売上高は変わらず、市場状況は好転しているが、業界としては依然厳しい状況である。



古紙収集加工業

10月も新聞古紙の発生は非常に悪い。雑誌古紙も含め発行部数の減により慢性的に減少の一途になると予想され、業界全体としての景況は悪化している。


**製本業**

組立員企業は長引く原油価格の高騰に伴う運送費などを、製品単価に転嫁できずまた、機材関連業は値上げを要望され苦慮している。


**シール印刷業**

前月同様コロナウイルス関連の規制解除による社会経済活動を背景に、食品・電気製品・化粧品・物流・医療関連等業種でラベル需要が回復、売上高は増加し、業界の景況は好転した。


**セルロイドプラスチック製品製造業**

前月比8%減、前年比も16%減で景況は極めて悪化している。


**石鹼洗剤製造業**

コロナ禍の反動減に苦しんだ石鹼は、浴用固形、手洗い用液体共に増加傾向にある。一方、合成洗剤では台所用、住宅・家具用共に好調を推移している。業界全体としては、円安に伴う原材料高、価格転嫁の難しさにより景況は悪化している。


**鍛造業**

生産量、売上高とも前年同月比では好転したが、前月比では悪かったため生産量は約5%増となった。主要の自動車用が前年比マイナスからプラスに好転したが、産業機械・土木建設機械用が若干前年割れとなった。自動車の減産懸念や燃料費、材料費等の値上りで収益状況に不安が残る状況である。


**建築金物製造業**

円安の進行により燃料価格、原材料費の高騰や物流コストの上昇などにより、業界の経営環境は依然として厳しい状況にある。


**産業機器製造業**

原材料及び副資材、運賃等の値上げを客先に対して反映させることが難しく収益を圧迫しており、業界の景況は悪化している。


**印刷製本機械製造業**

この数か月、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著

である。また、入手可能な部品は品切れを懸念し大量発生するため、通常の5倍近い在庫が発生しており、業界の景況感は極めて悪い。

**【非製造業】**

**電気機器卸売業**

業界全体として前年同月比では増収・増益を確保しているが、素材高騰・エネルギー価格の高騰が懸念され景況度については好転しているとは言い難い状況である。


**衣服・身の回品卸売業**

円安進行により仕入れ価格の高騰が続き採算は悪化基調にある。消費者の購買意欲も上がり需要は低迷し、業界の景況は悪化している。


**二輪自動車小売業**

来客数の減少で需要が減少しており、また、メーカーとの取引条件、収益状況も悪化している。


**警備業**

ウイズコロナの考え方が浸透し、イベント等の雑踏警備や高速道路工事の交通警備業の受注が増え、売上高、取引条件、収益状況は昨年同月より増加し、業界の景況は好転している。


**建設業**

改修などの相談はあるが、受注まで結びつかず、取引条件、収益状況共に悪化、業界の景況も悪化している。


**タイル工事業**

10月に入り、売上は少し増加傾向であるが、仕入商材の値上げがピークを迎えており、収益状況は悪化している。


**貨物運送業**

前年同月と比べ売上は減少し、引越資器材が再度高騰してきており、価格に転嫁できないため収益は悪化している。